

<30-01>

課題名 経営発展段階に応じた就農者支援	人づくり・組織づくり	京都乙訓農業改良普及センター
(1) 普及指導事項（評価対象） 面談や個別支援による課題解決支援	(2) 普及指導対象 就農希望者1名、就農準備中の人3名、新規就農者2名	
(3) 活動内容と成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 就農希望者に対しては、就農への道筋を理解してもらうため、面談により希望を聞き取り、栽培品目等の助言を行った。また、関係機関や地元農業者と連携して相談に応じた。その結果、自分で水稻栽培を開始できた。 ・ 就農準備中の人に対しては農家研修に加えて、計画的な農地取得や販売先確保ができるよう助言した。また、就農計画の立案ができるよう市町などの関係機関と連携して支援した。その結果、順調に農家研修を受けられ、各々が希望する農業ができるよう準備（農地、農業機械、販売先の確保、経営計画づくり）をすることができた。2名は就農し、1名は研修を継続する。 ・ 新規就農者に対しては、経営確立できるよう、市町、普及センター、地域農業者からなるサポートチームで面談を行う他、個別には場巡回を行い、栽培品目選定、営農体系、栽培技術、販売先確保、労力配分等について助言を行った。その結果、1名は重点品目を決めて栽培を実施でき、技術習得に取り組むようになった。もう1名は拡大した農地が管理できるよう、栽培品目や労力を考えるようになった。 		
(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等	
<p>① 営農計画が立てられない指導対象は、何が要因となり計画を立てられないのかを面談を通じて分析して対応する必要があるのではないか。原因が分からない場合は普及対象から外すことも必要ではないか。</p> <p>就農準備中の人がりタイヤされる場合が多いと聞いているので、特にこのグループのフォローをお願いしたい。</p>	<p>① 何回も面談を行い、本人のやる気をひきだすように話をしてきました。本人は物事をすすめるペースがゆっくりしているため営農計画立案まで至りませんでした。就農の意志は固めたので、次年度も根気よく支援していきます。ただし、支援しても実行に移されない場合は、本人の就農に向けた意思を十分確認した上で、他の進路の選択も含め指導方法を改めて検討していきます。</p> <p>普及センターが対象としている「就農準備中」とは、農人材育成投資事業の準備型受給者や、地域で横のつながりを持てるよう先進農家で研修をしている人を位置づけています。このような人に対しては定</p>	

	<p>期的に面談をしたり、指導者にも様子を聞いたりして、技術の習得度や研修状況等を確認するようにしています。</p>
<p>② 実際の対象の変化については、本人以外にはわからないので十分であるかどうかは不明。少ない支援者数なのだから、本人からのアンケートでもあると良いのでは。少し詳細な情報を整理、類型化し、今後の指導の具体的な活動指針に盛り込んでほしい。</p> <p>野菜、水稲いずれも将来的に生活できる収入が見込めるような方向かどうか気になりました。</p>	<p>② 記入式のアンケートでは設問の意図が伝わりにくかったり、回答を返してもらえなかったりすることがあるので、新規就農者本人の自己評価も含め聞き取りを行うようにします。新規就農者等の1人1人の状況や性格、労働力などが異なり、技術習得や発展のスピードも異なるため類型化はしにくいですが、支援対象者ごとに現状、目指す姿、今年度の目標、支援内容記録、中間評価や年度末評価などの状況確認を整理しながら進めており、今後も継続して指導していく予定です。</p> <p>青年等就農計画（作物、面積、労働力、設備、所得等を記入した計画書）を本人と普及センターを含めた関係機関で作成し、生活できる収入が見込めるような方向で今後も支援していきます。</p>
<p>③ 成果指標についての判定基準がわかりにくい。アンケートをとるなど、本人の評価も入れるとよい。</p>	<p>③ 成果指標についての判定基準は、評価基準・評価項目を明確にして、新規就農者本人の意思や自己評価も聞き取りを行い判定するようにします。</p>
<p>④ 地域の農家から評価が低い就農者は、今後どのようにフォローしていくのか。</p> <p>普及センターは、当該地域の人やものの情報を把握しておられるので、あらためて地域農業者と情報交換しなくても、普及センターが主体的に地域農業者の思いも伝えて、指導できることもあるのではないかと思います。</p>	<p>④ 地域農業者からの信頼を得るため、ほ場管理や野菜栽培管理をきっちりするなど行動で示すように普及センターから伝え続けるとともに、専門家や就農者が尊敬している人、地域で一目置かれている人の協力も得て、改善するように伝えていきます。</p> <p>また、本人はしっかりやっているとと思っていることであっても地域の農業者の合格基準を満たしていないことが多いため、普及センターは本人の思いと地域農家の思いのギャップを埋めるよう対応しています。周りの農業者から認められることが重要なので、地域の農業者からもしっかり指導してもらえるよう引き続き支援していきます。</p>

	<p>普及センターで把握している情報や地域農業者の思いは、対象者に直接伝えて指導していますが、例えば農地の利用権設定や農地管理状況については市町や農業委員がより詳しい情報を把握しているため、今後も関係機関が情報を持ち寄って指導していくようにします。</p>
<p>⑤ 農地と販路の拡大と労働不足は、経験者であれば誰でも推測できることだと考えるが、このようなことが起きた原因について整理をお願いしたい。</p>	<p>⑤ 普及センターが把握している計画内容以外に、次々と新しいことに取り組んだり、農地を必要以上に増やしたりすることにより、このような事態になったと考えます。背景には本人の性格（交友関係が広く多方面から声がかかりやすく、また声がかかると断れない、新しい事を好む等）が関係していると思われます。不要な農地を手放し、条件の良い農地での栽培に絞り、労働力に合った計画的な栽培をする等の助言や提案を行い、改善に向けて働きかけていきます。</p> <p>また、引き続き関係機関で面談を行い、生活や営農の継続のため、経営のあり方も考えなおすよう働きかけていきます。</p>
<p>⑥ 水稲受託で地域農業の受け皿をめざす者や野菜の周年栽培をめざす者もいるので、集落営農や各種生産部会に早く参画することも早道ではないか。</p>	<p>⑥ 水稲の受託等で地域農業の担い手を目指す人については、集落営農や大口の受託農家が組織する団体等の幹部に指導してもらうなど、研修の段階から集落営農との関わりを持つようにしています。また野菜などの生産部会のある品目を栽培する場合、部会に加入してもらっています。有機栽培の場合、部会はないので同様の栽培をしている人とながかりを持つよう、適当な農業者の紹介等を行っています。</p>